

検証！ 図書館のあるべき姿とは？

「図書館にはDNAが大事なのです」 菅原峻さん

私たちが普段利用している図書館は、はたしていい図書館だろうか。いいのなら、何がどういいのか。よくないなら、どうしてほしいのか。利用者一人ひとりがこんな視点から図書館を見つめれば、図書館はよりよくなる。では、図書館の良しあしを判断するポイントは何？ 全国の公共図書館づくりにかかわって20年になるオーソリティー、菅原峻さんに話を聞いてみた。

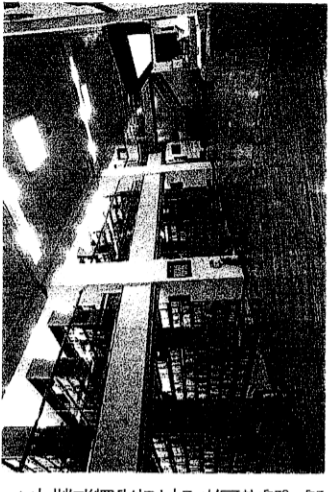
すがわら・たかし 1926年北海道生まれ。社団法人日本図書館協会に25年間勤務。78年3月図書館計画に施設研究所を創設。日本各地の図書館づくりに関わっている。全国的に図書館づくりに関わっている。全国的に図書館づくりに関わっている。全国的に図書館づくりに関わっている。



図書館ディレクター不足の大問題

菅原峻さんは全国各地の自治体の図書館建設計画にかかわるほか、図書館づくりを進める会「図書館を考える会」「図書館をよくする会」といった活動をリード＆サポートしている。図書館のあるべき姿について語るのに最もふさわしい人である。この菅原さんが「図書館にはDNAが大事」と断言する。

「Dとはディレクター＝館長。図書館とはまったくゆかりのないところから異動で来た。本に何の興味もない館長が、それとも専門の教育を受けて、本という海を航海する船。図書館をしっかりと操縦している館長が。大きな違いですね。NはNEW BOOK＝新しい本を指す。「新しく内容豊かな図書をきちんと購入し続けているか。」



▲千葉県浦安市立中央図書館。館長はじめスタッフの多くが専門職。年間貸し出し点数全国トップクラス。サービスも充実度満点。

これには予算の問題も関連してきますが、オープン後は資料購入がペースダウンする図書館も割と多いのです。

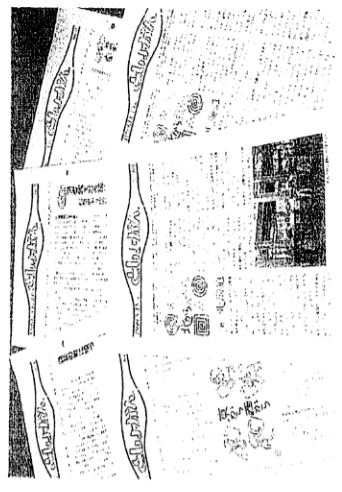
AはATTRACT＝魅力。中身の伴った資格を持ち、利用者の役に立つ魅力的な専門職員がいるかどうかです。

以上のDNAに照らすと、「日本の図書館の現状はお寒い限り」と菅原さんは語る。

「図書館はこれまで、予算をつぎ、土地を手当てし、設計事務所を選び、あとはよろしく……というつくられ方でした。これでは仏つくつて魂入れず。単に数が増えるだけ」

増えた中から、千葉県の浦安市立中央図書館に代表されるようなすばらしい図書館もいくつか生まれはした。また、現在多くの図書館が利用者でにぎわっているのも事実だ。しかし、裏へ回れば問題が山積しているとか。

「まず、図書館のない市町村が国内でまだ70%もあるんです。選書のレベルの低さも気になります。本の世界の豊かさが伝えられていないんじゃないか。ハウツーものばかりあつたり、全集などがとんと並んでいるだけというのは、選書の貧しさを感じますね。書架の間を歩くと、本に対する尊敬の念があつて選んでいるかどうかかわかり、その司書がわかるのです」



▲研究所発行の情報誌「としよかん」(年4回)は70号を数える。全国の図書館をよくする会の情報や図書館員の記事など満載。

「図書館は人」という言葉を実感する話だ。

◀三鷹駅に近い民間ビルの中にある、東京都三鷹市の三鷹駅前図書館。「多くの制約はあるが、納得できる選書をしている」と菅原さん。

日本の図書館は、3タイプに分けられる

たとえば、住民の熱心な運動の末に図書館オープンにこぎつけた——そんな祝いの落成式などの席で、菅原さんは「この先、皆さんの未来には、三つの道がありますよ」と

ちよつと水を差すそうだ。三つの道とは、

- ① 図書館という看板の下がつた役所
② 無料の貸本屋
③ 本物の図書館

「日本の図書館は、だいたいこの3タイプに分けられます。最も多いのは①のお役所で、全体の半分以上。残りの70%が②の無料の貸本屋。そのまた残りが③本物の図書館で、全体の5%ほどしかないですね」

しかも、当初③であっても、①②化していくケースが珍しくない。菅原さんは語る。「図書館はひよわな存在です。」

たとえば、専門職館長やスタッフがいても、異動や退職などで元の本阿弥になってしまうことが多い。行政の中での教育委員会の位置づけでも、日の当たる場所とはいえませんが、

では、本物の図書館が本物であり続けるには、そして本物でない図書館が本物になるには、どうすればいいのか。

「自分たちの町の図書館の現状を認識することですね。とにかく、どんどん図書館を利用することから始める。そして、図書館のDNAを知ることから自分たちにとってのあるべき図書館の姿が見えてきます。僕の特論は、図書館がよくなるのも住みやすくなるのも住民次第、なんですよ」



▲菅原さんの著書。自分たちの図書館を大きく成長させていくための貴重な手引きとして、多くのサークルのテキストにもなっている。

では、図書館や図書館行政に厳しい目をもって対峙する菅原さんに、日本の図書館10傑を教えてください。

ココが日本の公共図書館10傑だ！

北海道、東北、甲信越にはありません。関東は埼玉県の朝霞市立図書館で、最初の計画がしっかりとつくり、専門職館長がサービスの最前線にいます。鶴ヶ島市立中央図書館は、計画段階から市民がかかわり、現代館長はしっかりと図書館哲学を持っています。千葉県浦安市立中央図書館は、市内全域にサービスネットワークが広がり、代々が専門職館長インフォメーション・テクノロジーへの取り組みも見事で

ですね。東京は老舗が多いが、いまさらの感があるので省きます。東海にはありません。

滋賀県の八日市市立図書館は、環境というテーマを持ち、本のリサイクル市を常設したり、館内で無農薬コーヒーを飲むようにしています。能登川町立図書館は、きめ細かいサービスとそれのための施設づくりを評価したい。湖東町立図書館は、木造で、日本で三指に入る図書館建築。人口1万人未満の町に図書館がどう根づくか楽しみです。

関西・九州圏へと続く。大阪の熊取町立熊取図書館は、町民が声を上げ、準備に時間をかけた。女性専門職館長で、町民との二人三脚がしっかりとつくり、中国・四国にはありません。九州は福岡県の荏田町立図書館です。行政スキャンダルの後、町の立て直しは図書館から、と行政あげて取り組み、建物も図書館建築界に新風を吹き込みました。佐賀県の佐賀市立図書館は、館長が東京でユニークな図書館活動をしていた人。ふるさとで斬新な試みをしています。伊万里市民図書館は、長い市民運動が行政の地域おこしの姿勢とつまくみ合い、図書館サポーターも熱心です。

公共図書館10傑

- 朝霞市立図書館 (埼玉県朝霞市大字岡1404-75) 048-466-8686 月・祝 開館時間 火・水・土・日 9:30~18:00 木・金・土・日 9:00~19:00 蔵書39万6000 年間受入図書冊数3万6546 雑誌受入冊数428 個人貸出冊数68万1000
●鶴ヶ島市立中央図書館 (埼玉県鶴ヶ島市大字高倉1247-15) 0492-71-3001 月・祝 開館時間 10:00~18:00 蔵書44万4000 年間受入図書冊数3万1377 雑誌受入冊数753 個人貸出冊数126万9000
●浦安市立中央図書館 (千葉県浦安市猫島1-2-15) 047-352-4646 月・祝 開館時間 10:00~18:00 蔵書92万2000 年間受入図書冊数5万1692 雑誌受入冊数549 個人貸出冊数165万8000
●八日市市立図書館 (滋賀県八日市市金屋2-6-25) 0748-24-1515 月・火・祝 開館時間 10:00~18:00 蔵書25万6000 年間受入図書冊数1万7691 雑誌受入冊数581 個人貸出冊数39万4000
●湖東町立図書館 (滋賀県東知郡湖東町大字横溝196) 0749-45-2300 月・火・祝 開館時間 10:00~18:00 蔵書8万7000 年間受入図書冊数5599 雑誌受入冊数174 個人貸出冊数11万7000
●能登川町立図書館 (滋賀県神楽郡能登川町大字山路222) 0748-42-7007 月・火・祝 開館時間 10:00~18:00 蔵書8万5000 年間受入図書冊数1万4164 雑誌受入冊数217 個人貸出冊数25万8000
●熊取町立熊取図書館 (大阪府泉南郡熊取町野田4-2714-15) 0724-51-2828 月・祝 第2・第4火 開館時間 10:00~18:00 (7・8月のみ) 11:00~19:00 蔵書29万8000 年間受入図書冊数2万5000 雑誌受入冊数458 個人貸出冊数63万1000
●刈田町立図書館 (福岡県京都郡刈田町富久町1-17) 093-436-0946 月・祝 開館時間 10:00~17:30 蔵書26万3000 年間受入図書冊数2万2138 雑誌受入冊数349 個人貸出冊数60万1000
●佐賀市立図書館 (佐賀県佐賀市天神3-2-15) 0952-40-0001 月・祝 開館時間 10:00~19:00 日・日・祝 17:00~19:00 蔵書44万3000 年間受入図書冊数10万9184 雑誌受入冊数667 個人貸出冊数266万3000
●伊万里市民図書館 (佐賀県伊万里市立花町4110-15) 0955-23-4646 月・祝 開館時間 火・木・土・日 10:00~18:00 金・土・日 10:00~17:00 蔵書20万2000 年間受入図書冊数2万2446 雑誌受入冊数287 個人貸出冊数55万1000

*そのほかの休館日などについては電話でお問い合わせください。